

NO! リニア

No. 1 1 6

2020年5月8日

J R 東海労働組合

J R 東海労HP
にアクセス↓



金子社長発言は誠に遺憾！

国交省が J R 東海に反省を促す

『NO! リニア』No. 1 1 5号でもお伝えしましたが、第1回中央新幹線静岡工区有識者会議における J R 東海金子社長の発言に対し、流域市町の首長、県知事、利水団体が国土交通省へ抗議文と金子社長への適切な対処を求める要請が提出されました。

金子社長は4月27日の会議で「南アルプスの環境が重要であるからといって、あまりに高い要求を課して、それが達成できなければ、中央新幹線の着工も認められないというのは、法律の趣旨に反する扱いなのではないか」などと発言しました。何と高飛車・傲慢な発言でしょうか。まるで「J R 東海が法だ」と言わんばかりです。

会議の性格を無視するな！

大井川の水問題を科学的・工学的に議論する場

要請に対して国交省は「J R 東海には反省を促すとともに、会議が円滑に進むように会議の趣旨を踏まえ説明責任者として真摯な対応を」と J R 東海を指導しました。工事を認可した国交省までもが、J R 東海の態度を看過出来ないと判断したのです。(国交省HPも参照して下さい)

これに対し J R 東海は「会議が円滑に進むように真摯に対応していく」とコメントしています。この「真摯に対応していく」というフレーズは何度聞いたことでしょうか！工事を円滑に進めたいのであれば工事認可時の「地元住民等への丁寧な説明を通じた地域の理解と協力を得ること」という太田大臣(当時)の言葉を思い起こし、猛省するべきです。